



# 小悪魔に 孕まされたガール



その日下校途中  
私は突然はげしい  
めまいに襲われました

そして  
目を開けた  
次の瞬間

いやあああつ!!

クソッ

クソッ  
クソッ

んぐっ

クソッ

私は得体の  
知れない  
バケモノに  
襲われて  
いたのです

ニンゲンノ  
オンナダ

ヤレー

ヤッチマエ

私は身包みを  
はぎ取られ  
何匹ものバケモノに...

すべての  
力を使って  
抗いました

しかしそれは  
無駄という言葉の  
他ならない  
行動でした

ワカイ  
オンナダ

ケケケケツ!!

もみっ  
もみっ

チュ  
パ

パコッ  
パコッ  
パコッ  
パコッ  
パコッ

ケケケー!!

オ○ンコ  
キモチイイゾ

何度も  
オカされました

私の頭を押さえ  
手を押さえ  
足を開き

私は  
何が何だか  
わかりません  
でした

ナメロオ

ケケケツ

ここはどこなのか？

どうして  
こんな世界に  
来てしまったのか？

むぎゅ

むぎゅ

むぎゅ

そしてこの  
バケモノたちは  
何なのか…

クワエロオ

ケケケツ



ワカイオンナ  
ヤルゾ

オ○ンコ  
ヤルゾ

いやああっ！  
イヤアアッ！！  
誰か助けて  
ええええ！！

ズッ  
ズッ  
ズッ

レロ  
レロ  
レロ

ズッ  
ズッ  
ズッ

しかし  
そんな事は  
もはやどう  
でもいい事

私は  
殺される恐怖に  
身がすくみ

ひたすらに  
助けだけを  
求めています

ケケケッ  
キモチイイゾー



痛いっ…痛い  
…苦しい

ケケツ

ケケツ

ハ  
/

パ  
ー  
ル

私は男性と一度も  
手をつないだことも  
キスもしたことがなく

もちろんセ○クスなどの経験は一度だった  
ありませんでした



オカセー

オンナヲ  
オカセー

私は  
バケモノに  
屈辱の限りを  
尽くされ…

ケケケー

オンナヲ  
オカセー

私は  
自分がどうにか  
なってしまうて  
いました

ズボッ  
ズボッ  
ズボッ

んぐ  
んぐ  
んぐ



早く  
終わって欲しい

...いや  
助けが来ないのなら  
いっそのこと  
このまま死にたい

私は  
ただそれだけを  
願うように  
なりました

たん  
たん

たん  
たん  
たん

そして私は  
いつのまにか  
『殺される』という  
恐怖は  
なくなりました

コヲ  
ウマセロ

むに

むに

レロ

なぜなら  
このバケモノたちの  
目的は…  
『繁殖』そのもの  
だからだったからです

コヲ  
ウマセロ

コヲ  
ウマセロ

ケツケツケ



助けも来ない

以前の日常にも  
戻れない

死ぬことも  
できない



ウマセロ

はっ  
んっ

**はっ  
はん**

は○  
ん  
っ

はっ

私は  
涙と笑いが  
なぜか  
こみ上げてきました

そう  
私はこのまま  
永遠にこうなのだと  
思えば思うほど

絶望で笑い出して  
しまっているのです

コノオンナ  
サイコー

チュポ。

ああん

もっと  
オカしてえええ!!

そしてそれは  
徐々にカラダへの  
快樂へと  
変わっていき

ケケケッ

バケモノに  
オカされる  
喜びに変換するしか  
道はなかったのです

チュポ。

チュポ。

はんっ

はんっ  
はん

はんっ

はんっ

私は  
バケモノを  
受け入れます…

おしまい















































